

特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査

10月8日（火）、八千代市を流れる桑納川^{かんのう}、新川^{しんかわ}周辺において（独）水資源機構千葉用水総合管理
所は各行政機関、環境団体と協働して特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査に参加しまし
た。現在、千葉県と印旛沼流域13市町等では印旛沼流域水環境健全化計画に基づき、印旛沼浄化の
ための具体的な行動を進める「みためし（見試し）行動」を実施しています。本調査もその一環と
して行われ、その目的は分布調査を通じて水環境健全化の基礎資料とするとともに市民への啓発を
行うものです。主催者の八千代市環境保全課を含む16団体、総勢48名を9班に分けて、そのうち
陸上から8班が桑納川、水上（船上）から1班が新川においてナガエツルノゲイトウの分布状況を
調査しました。ナガエツルノゲイトウが河川を覆い尽くすほど広範囲に、また背丈が伸びて群生して
いる光景を目の当たりにしてその繁殖力に息をのむほどでした。

調査後、調査結果をもとに参加者の間で意見交換が活発に行われました。同管理所から、大和田
排水機場に大量のナガエツルノゲイトウが押し寄せ、排水運転に支障が生じた事例を、農家から陸
生するナガエツルノゲイトウが稲刈りの耕耘機に絡まり不具合が生じている実態を、土地改良区か
らナガエツルノゲイトウが排水機場の吸水口を塞ぎ排水運転が困難になった事例の報告がありまし
た。その中で、施設機能を維持するためにナガエツルノゲイトウを撤去する作業や費用を、施設管
理者等が自ら実施することによる負担も年々大きくなっており、対応に苦慮している実態につい
ても報告がありました。

多くの関係者がナガエツルノゲイトウの対応に苦慮し駆除方法を模索している状況を踏まえ、現
在行っている個々での取り組みだけでは限界があるとの共通認識を作り、今後は「ナガエツルノゲ
イトウをこれ以上如何に拡散させないか。」を考えていくことを、参加者全員で確認しました。

引き続き、同管理所は、各関係機関とナガエツルノゲイトウに関する情報共有を図るとともに、
連携してその方策を模索し解決に向けて取り組んでいきます。



■流れを止めるまで繁殖したナガエツルノゲイトウ（桑納川）



■背丈まで伸びたナガエツルノゲイトウ（新川）



■分布調査に向けた打合せ



■調査結果をもとに意見交換

※ナガエツルノゲイトウ（特定外来植物）

南アメリカ原産の外来種で、水辺の湿った環境に生える多年草である。在来種の植物を駆逐したり水面上に繁茂することで水流を停
滞させる。また、農業用水のポンプがナガエツルノゲイトウを吸い込むことでスクリーンに目詰まりが生じポンプ運転に支障を来す。